

令和3年度 事業報告書

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

学校法人 上野学園

令和3年度 事業報告書

I 法人の概要

設置する学校・学部・学科等

上野学園大学

音楽学部 音楽学科 器楽コース
 声楽コース
 グローバル教養コース
 演奏家コース
 音楽専攻科 音楽学専攻
 器楽専攻
 声楽専攻

上野学園大学短期大学部

音楽科
 専攻科 音楽専攻

上野学園高等学校

全日制 普通科 特別進学コース
 総合進学コース
 全日制 音楽科 演奏家コース
 器楽・声楽コース

上野学園中学校

アドヴァンスト・コース
 プロGRESS・コース

学校・学部・学科等の学生・生徒数（令和3年5月1日現在）

学校	学部・学科等	入学定員	収容定員	入学者数	在籍者数
上野学園大学	音楽学部音楽学科	0	320	0	100
上野学園大学短期大学部	音楽科	50	100	37	83
上野学園高等学校	普通科	160	480	122	477
	音楽科			6	26
上野学園中学校		80	240	60	148
合 計		290	1140	225	834

役員等の概要（令和3年6月22日現在）

理事 5名 石橋香苗（理事長）、ジャン＝フランソワ・ミニエ、江幡亜木、松平恒和、土屋正孝
 監事 2名 鈴木達也、弘中絵里
 評議員 14名

教職員構成、人員数（令和3年5月1日現在）

教員／事務職員	専任	非常勤	合計
上野学園大学	23	79	102
上野学園大学短期大学部	8	58	66
上野学園高等学校	52	39	91
上野学園中学校			
事務職員	30	19	49
合 計	113	195	308

※学校基本調査に記載している人数に基づく。

上野学園の沿革

- 1904年 11月 建学の精神を「自覚」として、石橋藏五郎が私立上野女学校を創立
(下谷区上野桜木町2番地)
- 1910年 9月 財団法人私立上野高等女学校創設
- 1912年 10月 浅草区神吉町46番地(現台東区東上野4丁目)に移転
- 1914年 11月 私立上野実習女学校を、私立上野家政女学校に改称
- 1946年 4月 上野女子高等学院(文化科・家政科)を設置
上野高等女学校専攻科(英語科・被服科)を設置
財団法人上野学園に改称
上野高等女学校が東京都の音楽研究指定校となる
- 1947年 4月 上野学園中学校を設置(学校教育法実施により上野高等女学校および同専攻科は上野学園中学校・上野学園高等学校に改組。高等学校は翌年に設置される)
- 1949年 4月 上野学園高等学校に全国初の音楽科を設置
上野学園高等学校別科を設置
- 1951年 3月 学校法人上野学園に変更
- 1952年 4月 上野学園短期大学を開学し、音楽科を設置
石橋益恵、学長に就任
上野女子高等学院を廃止
- 1956年 4月 短期大学家政科を設置(2006年廃止)
- 1958年 4月 上野学園大学開学、音楽学部器楽学科・声楽学科・音楽教育学科を設置
石橋益恵、学長に就任
- 1959年 3月 短期大学音楽科を発展的に解消
- 1961年 3月 上野学園家政高等学院が上野学園草加高等学校に改組
- 1963年 4月 大学音楽学部器楽学科に日本初のチェンバロ専門、音楽教育学科に音楽学専門を開設
- 1963年 10月 大学音楽学部、日本音楽史料の組織的収集に着手
- 1964年 4月 石橋藏五郎逝去
- 1964年 6月 石橋益恵、理事長に就任
- 1966年 4月 大学音楽専攻科(音楽教育専攻・器楽専攻・声楽専攻)を設置

	短期大学音楽科を再設置（埼玉県草加市）
1968年4月	短期大学専攻科（音楽専攻）を設置
1969年4月	大学音楽学部器楽学科に日本初のリュート、ヴィオラ・ダ・ガンバ、リコーダーの各専門を開設
1970年4月	大学音楽専攻科の音楽教育専攻を音楽学専攻に改称
1971年4月	大学音楽学部器楽学科に日本初のギター専門を開設
1973年4月	研究施設、上野学園日本音楽資料室を創設
1974年11月	創立70周年記念講堂（石橋メモリアルホール）竣工
1981年4月	石橋益恵、学園長に就任 石橋裕、上野学園大学および上野学園短期大学長に就任
1985年4月	短期大学家政科を草加キャンパスに移転、短期大学を集約し、名称を上野学園大学短期大学部に改称 短期大学部人文学科（英語専攻・文化専攻）を設置
1992年2月	石橋益恵逝去
1992年3月	石橋裕、理事長に就任
1992年4月	上野学園大学短期大学部専攻科国際文化専攻設置
1995年4月	短期大学部人文学科を大学国際文化学部へ改組転換、英語と英国・アイルランド文化コース、スペイン語とイベリア、ラテン・アメリカ文化コース設置
1996年3月	国際文化学部への改組転換により、短大部人文学科廃止
2000年4月	短期大学部音楽科に音楽療法士養成教育課程を開講
2004年4月	上野学園大学音楽・文化学部を設置（音楽学部と国際文化学部を統合） 音楽・文化学部音楽学科に演奏家課程を設置
2004年11月	創立100周年記念式典挙行
2005年4月	大学演奏家課程を演奏家コースに改称 高等学校音楽科に演奏家コースと器楽・声楽コースを設置 大学音楽・文化学部国際文化学科、短期大学部音楽科、家政科、上野キャンパスへ移転
2006年10月	日本音楽資料室を上野学園大学日本音楽史研究所に改称
2007年4月	石橋裕、学園長に就任 石橋慶晴、理事長に就任 上野学園大学・同短期大学部、上野学園中学校・高等学校を男女共学化 高等学校普通科に特別進学コースと総合進学コースを設置 創立100周年記念事業として新校舎竣工
2007年9月	上野学園楽器展示室を開室し、上野学園所蔵の古楽器を公開
2007年10月	上野学園大学日本音楽史研究所を草加キャンパスに移転
2009年4月	原田禎夫、上野学園大学・同短期大学部学長代行に就任
2010年2月	新講堂（上野学園 石橋メモリアルホール）竣工
2010年3月	大学音楽・文化学部国際文化学科廃止
2010年4月	大学音楽・文化学部を音楽学部へ改称 上野学園大学日本音楽史研究所が大学附置研究所となる

	高等学校普通科に特別進学コース $\alpha \cdot \beta$ を設置
2010年 5月	音楽文化研究センターを大学音楽学部の附属機関として設置
2011年 4月	石橋裕、上野学園大学名誉学長の称号を授与される 前田昭雄、上野学園大学学長に就任
2014年 9月	石橋慶晴、上野学園大学短期大学部学長に就任
2014年 11月	創立 110 周年記念式典挙行
2015年 4月	ミュージック・リサーチ・コースをグローバル教養コースに改称 グローバル教養コースに文化創造マネジメント専門を開設 船山信子、上野学園大学学長に就任 中学校音楽コース、普通コースをアドヴァンスト・コースとプロGRESS・コースに改編 高橋公三子、上野学園中学校・高等学校校長に就任
2015年 12月	上野学園大学日本音楽史研究所を上野キャンパスに移転
2016年 4月	上野学園高等学校との連携プログラムを施行
2016年 6月	石橋香苗、学校法人上野学園理事長に就任
2017年 1月	石橋裕学園長逝去
2017年 4月	皆川弘至、上野学園大学学長に就任 石橋香苗、上野学園大学短期大学部学長に就任
2019年 4月	前田昭雄、上野学園大学学長に就任
2020年 4月	吉田亘、上野学園中学校・高等学校校長に就任

II 事業の概要

<法人の事業>

1) 石橋メモリアルホール売却

当学園は中長期的な視点にたち、施設の有効利用、恒常的な運営費用等の低減、財務体質の強化等の経営効率化のため、令和 3 年 11 月株式会社ブシロードミュージックに石橋メモリアルホールを売却した。

早速 3 月 23 日に開催された「飛行船シアター」の内覧会において、本学の教員・学生が出演し、ホルン、ピアノ、フルートアンサンブル演奏を披露し、多方面より好評を得た。相互の新しい取り組みの一步となる機会であった。

当学園は、本ホールを引き続き、教育関連の行事、演奏会等で使用していくとともに、株式会社ブシロードミュージック、劇団飛行船と産学連携で芸術文化を通じた新しい教育の開発に取り組む予定である。

2) 学校法人運営調査委員による実地調査

令和 3 年 2 月に学校法人運営調査委員（文部科学省）による実地調査があり、学校法人の管理運営、その活動状況及び財務状況等に関する調査及び指導・助言を受けた。人件費削減、財務状況の改善を速やかに行うべく、中期 5 ヵ年計画をより実効性のあるものとすることを目指す。

3) 財務基盤の改善

18歳人口が減少傾向する中での学生確保の問題、経常費補助の減少傾向等、本学園全体の運営方法の合理化と効率化なくしては本学園の財務基盤の健全化は達成できないため、財政改善の推進は学園にとって最重要課題という強い認識を持っている。

- (1)赤字運営であったホールの資産売却により、収支赤字の削減と運用資産余裕比率の改善を図った。
- (2)銀行との関係強化により、新規銀行との借入の実施を行い、年度収支差額を黒字とした。
- (3)教育活動収支差額や経常収支差額の改善による財務改善は、学学生募集停止に伴う、大学部門の収支赤字やこれに関わる費用が令和5年度まで影響を与えるため、令和3年では実現していない。令和6年度以降と計画している。その中でも、中学の入学生が前年比146%となった。

4) SD活動

令和3年度は、次の研修会を実施した。

日 時 令和4年3月30日(水) 13:00-14:30

場 所 第1リハーサル室 (オンラインでの参加も可)

テーマ ICT研修会—情報セキュリティとオンラインミーティングツールの利用について—

対 象 大学・短期大学部の全教員及び職員

5) 学園全体に係わる主な事業の概要

学園創立117周年にあたる今年度も昨年度に引き続き、「Revalue 再び価値を見直す」「Cross-sectional 横断的な豊かな学び・研究」の視点から、教学、法人面における精査、改善を実施した。

まず「Revalue」においては、1) 伝統校として培った教育のノウハウ、知的財産を活かした特色のある学びを新たに打ち出していくこと、2) 特色ある学びに基づく一貫教育の充実に向けて環境を整備すること、3) 法人においては、平成30年度より引き続き業務改善に取り組むことに加え、業務の効率化に向けて抜本的な見直しを行うことに取り組んだ。

次に「Cross-sectional」においては、1) コースに限ることのない、横断的かつ多角的な学びの実現のための教養科目と選択科目を充実させること、2) 実技面における多角的な学びを充実させること、3) 日本と海外との交流、海外留学・研修制度を充実させること、4) 地域連携の促進を実施していくことに取り組んだ。

6) 情報発信力の強化

① 広報ツールの整備

短大の広報としては、引き続き、SNS等の風評被害を受けながらの活動となった。

2020年度に引き続き、広報媒体毎に資料請求者が出願する割合を算出、出願率が低い広報媒体については契約を終了することで広報コストの削減をはかった。進学情報サイトへの掲載の絞り込みも行った。結果としては、来校者数と入学者数については、同率の減少はなかった。

<表1：2021年度資料請求者数>

2021年度月別資料請求者数														※カッコ内は2020年度数	
	2021年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2022年 1月	2月	3月	総計	前年比	
総反応数	49 (380)	41 (462)	46 (468)	53 (405)	50 (290)	56 (135)	72 (114)	41 (100)	28 (93)	35 (102)	39 (71)	65 (81)	575 (2,701)	21%	
2022年卒 既卒	33 (160)	33 (223)	31 (250)	30 (164)	29 (107)	39 (41)	32 (46)	16 (39)	7 (37)	13 (48)	23 (32)	25 (45)	311 (1,192)	26%	
2023年卒	13 (144)	5 (156)	6 (163)	15 (152)	16 (117)	9 (53)	11 (42)	11 (32)	14 (26)	13 (41)	12 (31)	25 (33)	150 (990)	15%	
2024年卒	2 (75)	2 (83)	6 (55)	7 (89)	5 (66)	8 (41)	7 (26)	3 (29)	1 (29)	9 (12)	3 (8)	14 (0)	67 (513)	13%	

<表2：2020年度～2022年度入試受験者数の推移>

受験者数から入学者数の推移				
	志願者	受験者	合格者	入学者
2020年度	49	46	43	40
2021年度	45	43	42	37
2022年度	35	35	35	35

② オンラインツールの整備

2021年度においては新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、2020年度に引き続き対面での広報活動が困難であったため、オンラインを活用した広報ツールの整備充実を継続した。具体的には、教員・学生の協力による動画、オープンキャンパスサイト等を通じて本学の魅力を発信することに努めた。

③ 高校との接触

新型コロナウイルス感染拡大防止による緊急事態宣言が発令された影響もあり、高校訪問の数は前年同様になかなか伸びなかった。2021年4月から12月までに178校、1月以降に78校合計248校を訪問している。埼玉県と東京都の高校を中心に訪問を行った。また、高等学校で行われる校内ガイダンスや会場ガイダンスにも合わせて14件参加をし、高校との接触に努めた。

④ オープンキャンパス

2021年度は下表の日程においてオープンキャンパスを実施した。2020年度との直接的な比較は、新型コロナウイルス感染拡大の影響があるため難しいと考えられるが、全体的な高校生の参加者数としては、前年に追いついていた。今後は新規来校者の累積数集計を追加する。

<表 3 : 2021 年度実施オープンキャンパス参加者数の前年度との比較>

2021年度オープンキャンパス参加者数 ※黒字カッコは2020年度													
No.	開催日	全体		2022卒生 既卒		2023卒生		2024卒生		体験レッスン 短大			
1	3月28日(日)	30	(0)	3	(0)	10	(0)	0	(0)	17	(0)	11	(0)
2	4月18日(日)	26	(0)	13	(0)	2	(0)	0	(0)	11	(0)	10	(0)
3	6月13日(日)	26	(30)	12	(24)	3	(5)	0	(0)	11	(0)	9	(11)
4	7月18日(日)	45	(30)	20	(23)	1	(7)	2	(0)	22	(0)	15	(11)
5	8月22日(日)	40	(29)	25	(20)	13	(8)	2	(1)	0	(0)	12	(11)
6	10月3日(日)	26	(58)	14	(19)	2	(9)	1	(2)	9	(28)	7	(17)
合計		193	(147)	87	(86)	31	(29)	5	(3)	70	(28)	64	(50)
前年比		131%		101%		107%		167%		250%		128%	

今後もコスト削減を継続しつつ、高校訪問数の増数、連携校の発掘（高校からの要望にマッチした連携）、資料請求者へのきめ細かな対応、（電話、SNS での連絡、担任を含む受験にかかわる高校教員との連携）、掲載資料や配布資料の更なる明瞭化が次年度の課題として挙げられる。

<大学・短期大学部の事業>

1) 教員の適正な配置による教育の質保証（大学・短期大学部）

大学は、学生募集停止により開講科目が徐々に縮小されているが、学生の履修計画に沿った科目開講を最優先にした上で、担当教員の配置を見直している。

短期大学部においても、授業科目数と学生数・教員数のバランスを見ながら、規模に見合った授業科目を開講している。

2) 遠隔授業・レッスンの実施（大学・短期大学部）

前年度に引き続き、新型コロナウイルスへの感染リスクを低減するため、遠隔授業・レッスンを実施した。実施に当たっては、コロナ禍における学生の学修機会の確保を念頭に、実技レッスン及び合唱・合奏はフィジカルディスタンスをとった上で対面で、講義については遠隔で行うことを基本とした。

遠隔授業・レッスンにおける達成度や満足度を測るためにアンケートを実施したところ、概ね良い反応が得られた。その結果は「令和2年度遠隔授業アンケート報告書」としてホームページで公開している。

3) 留学支援体制の立ち上げ（短期大学部）

仏パリ・エコール・ノルマル音楽院への留学支援・指導の体制構築に着手した。同音楽院出身の専任教員2名がオフィスアワーを利用して学生からの相談に応じることにしている。学生募集活動においても、この留学支援体制に対する関心が感じられる。令和3年度、第二外国語に新しく「仏語」を開設し、2年間を通じてフランス語が学修できるカリキュラムに改めた。

4) 長期履修学生制度 (短期大学部)

平成 27 年度に開設した「長期履修学生制度」は、運用開始から順調に一定数の入学生を得ている。

年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
長期履修学生 (人)	5	3	5
入学者数における割合 (%)	11.9	7.5	13.5

5) 演奏活動 (大学・短期大学部)

令和3年度に実施した大学および短期大学部主催・参加の演奏会は下記の通りである。

[令和3年度上野学園大学・同短期大学部主催・参加演奏会 (一部ホール主催公演と重複)]

日付	演奏会	会場
5月15日(土)	春の演奏会 (無観客開催、Zoomによる配信)	上野学園 講堂
6月3日(木)	上野学園大学による午後のコンサート・シリーズ 28「古楽、オーケストラ」	台東区立旧東京音楽学校 奏楽堂
6月23日(水)	ランチタイム・コンサート〈フルート・アンサンブル〉	上野学園 講堂
9月28日(火)	第14回上野学園古楽器コレクションミュージアム・コンサート「シューディとその時代」	上野学園 講堂
10月7日(木)	上野学園大学による午後のコンサート・シリーズ 29「オペラ・麗しの花園」	台東区立旧東京音楽学校 奏楽堂
10月16日(土)	秋の演奏会	上野学園 講堂
10月23日(土)	第34回 短期大学部定期演奏会	上野学園 講堂
11月12日(金)	第9回合唱定期演奏会	上野学園 講堂
11月20日(土)	第70回 オーケストラ定期演奏会	上野学園 講堂
11月26日(金)	第12回 音楽大学オーケストラ・フェスティバル 2021	東京芸術劇場
2月19日(土)	古楽研究室演奏会「波多野睦美さんを迎えて～J.ダウランドの世界」	上野学園 オーケストラスタジオ
2月9日(水)	第9回 ウィンド・アンサンブル定期演奏会	北とぴあ さくらホール
2月25日(金)	短期大学部音楽科卒業演奏会／修了演奏会	台東区生涯学習センター ミレニアムホール
3月5日(土)	大学音楽学部卒業演奏会	飛行船シアター(旧 上野学園 石橋メモリアルホール)
3月10日(木)	上野学園大学による午後のコンサート・シリーズ 30「弦楽合奏の世界」	台東区立旧東京音楽学校 奏楽堂
3月26日(土)・27日(日)	第11回音楽大学フェスティバル・オーケストラ	ミュゼザ川崎シンフォニーホール、東京芸術劇場

「音楽大学オーケストラ・フェスティバル」・「音楽大学フェスティバル・オーケストラ」への参加は恒例となっている。他音楽大学との交流を図り、上野学園大学管弦楽団の音楽的・技術的質の向上を推進した。

また、学生数が多い管楽器では、ウィンド・アンサンブル定期演奏会において、外部から指揮者を招へいしている。吹奏楽部に力を入れている高校を招待する等、学生募集の一翼を担う演奏会でもあり、学園祭で開催したウィンド・アンサンブル発表会とも連動している。

6) 特別公開講座の実施 (大学)

令和3年度に実施した特別公開講座は下記の通りである。

日付	内容	講師/演奏者
5月15日(土)	春の演奏会	学生によるアンサンブル等
10月16日(土)	秋の演奏会	学生による独奏・独唱等
10月27日(水)	シューマンとベートーヴェン	前田昭雄学長
11月12日(土)	第9回合唱定期演奏会	中村拓紀非常勤講師指揮 上野学園大学合唱団
11月20日(土)	第70回オーケストラ定期演奏会	福島康晴非常勤講師指揮 上野学園大学管弦楽団
11月25日(木)・ 26日(金)	オルガン演奏会	小林英之非常勤講師

7) FD 活動 (大学・短期大学部)

令和3年度は、次の研究会を実施した。

第15回FD研究会

日時 令和3年6月16日(水) 16:00~17:15

場所 第1リハーサル室 (オンラインでの参加も可)

テーマ 教員・学生間のコミュニケーションの在り方について

対象 大学・短期大学部の全教員及び職員

講師 林陽子顧問弁護士、山縣敦彦顧問弁護士

教員によるハラスメントを予防する観点から、学生とのコミュニケーションの在り方を省みて、健全な学修環境を保つことを目的とする。

8) IR 活動 (大学・短期大学部)

IR委員会により、定期的なアンケート実施が確立されている。入学時の期待感と卒業時の達成度、在学中の学修時間を継続的に測ることを目的とする。

9) 日本音楽史研究所の事業 (大学)

○国文学研究資料館への寄託事業 (平成30~令和3年度)

令和2年度は寄託事業の最終年度であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、令和3年度に能楽部門、仏教音楽部門(声明史料一部)、漢籍、岸边成雄旧蔵史料などを3月25、26日に寄託した。令和3年度にて寄託事業は完了であるが、移送した史料とリストの照

合、本学法人と国文学研究資料館との完了確認は令和4年度に行う。すでに寄託された史料については、国文学研究資料館が史料のデジタル化を行い、学術情報を発信することで、日本音楽史研究所の研究協力体制を強化していく。

○一般業務

史料の収集・維持（保存・修繕・調整）／史料調査・研究／史料閲覧（寄託作業のため、限定的に閲覧受付）／運営委員会（毎月開催）／研究年報『日本音楽史研究』編集・執筆／架蔵資料等目録の編纂とそのデータベース化準備等

○調査研究

- ・『日本音楽史料叢刊3 楽人補任総覧』編集・刊行（翻刻・図表資料は最終校正に入った。楽人略記等原稿の執筆作業を進めている）
- ・研究年報『日本音楽史研究』第9号を令和4年度に刊行すべく、編集執筆作業。近年の緊縮財政のため、リポジトリを整備し、そちらへの掲載を予定している。

○日本音楽史論文集（『歴史学としての日本音楽史研究』）編集刊行事業

令和4年6月に刊行予定。

○研究者受入・科研費関係

- ・令和元年度より3年間、早川太基氏（北京大学文学博士）を日本学術振興会特別研究員PDとして受け入れた。令和2～3年度は特別研究員奨励費（科研費）を取得した。就職のため、令和3年9月末にて日本学術振興会特別研究員PDを採用辞退となった。特別研究員奨励費（科研費）の報告書のみ5月中に提出予定。

10) 就職支援：キャリア支援センター（大学・短期大学部）

① 就職支援の取り組み

一般企業への就職支援、音楽能力を活かした進路への支援等、引き続き、学生の職業選択の幅を広げるべく取り組んできた。学生の卒業後の動向については、局面に応じて職員・教員間で情報共有し、進路不明者を減少させるべく充実施策の検討・実施を続けている。

② キャリアカウンセラーの配置と個別指導の徹底・強化の継続

キャリアカウンセラーによる個別面談（予約優先制）の他、就職活動・進路決定のうえで役立つ下記支援の実施を続けている。月～金・10:30～17:30の間はキャリアコンサルタント有資格者が在室し、相談がしやすい環境づくりに努めている。

支援内容としては、「自己分析」、「適職相談」、「履歴書の書き方」（自己PR・学生生活で力を注いだことなどの書き方）、「企業・業界研究」、「インターンシップへの参加」、「応募書類添削」、「ビジネスマナー」、「面接対策」、「筆記試験対策」「就職情報の提供」「進学・留学関連情報の提供」「内定後の相談」などである。

個別対応によるカウンセリングは、「業界・職種の理解」を含め行った。令和3年度は緊急事態宣言の影響で学生の登校が少なかったにも関わらず、当初の目標であった年間カウンセリング件数のべ750件に対し734件実施で、達成率は97.8%となった。なお、令和2年度比では104.2%であった。きめ細かい個別カウンセリングを実施することにより、キャリア支援センターの利用満足度向上を図った。

③ 低学年次学生対応

早期キャリア教育の重要性を鑑み、低学年次（就職活動をする学年以外）の学生が、より気軽にキャリアカウンセリングを受けることを促すため、キャリア支援センターの活動に関する告知・掲示等を継続して行っている。教員志望の学生には、希望進路に関連した学童保育指導員の短期アルバイトやボランティアを紹介し、教職担当教員とも情報の共有を行った。

④ メール・電話相談の利用の推奨

昨年度に続きコロナ禍にあるため、本年度も非対面での相談利用も呼び掛けた。学生からはエントリーシートの添削などが自宅でも受けることができるなど、好評を得ている。

本年度のメール相談の総計は、エントリーシートの添削などを主として 380 件に及んだ。

⑤ 音楽教室講師希望者支援

本年度も今まで同様に、在学時から講師のアルバイトを経験することも、より講師の仕事理解を深めることにもなるため、アルバイトの斡旋なども行った。しかし、コロナ禍の影響もあり、実際にアルバイトの経験を積むまでには至らなかった。

⑥ 教員希望者支援

今年度は教職担当教員との連携をさらに深め、私学教員・臨時任用・非常勤講師などの求人情報を共有し、スピードをもって卒業生も含む人材の推薦なども行っていった。

また、現在は教職における採用面接でも、ストレス耐性や柔軟なコミュニケーション力などが年々重要視されてきているため、キャリア支援センターでの面接練習なども促進している。

⑦ インターンシップの強化

長期休業期間を利用して、低学年次からのインターンシップ参加を促している。令和 3 年度はオンラインのインターンシップに参加した学生が増加した。

⑧ インターンシップ提携企業との親交

以前から引き続き、音楽療法を積極的に取り入れているデイケア老人福祉施設・学童クラブ・児童館運営などの事業を行う企業 2 社と連携し、音楽療法および学習補助・介護補助を行うインターンシップの参加を呼び掛けたが、コロナ禍なものもあり参加者はいなかった。ただし、今後に向けての関係性を保つためにも、親交は絶やすことなく続けている。

⑨ メールマガジンの配信・本学学生用 WEB 求人検索サイトなどの情報発信

本年度より卒業年次生と翌年卒業見込生に向けて、月に 2~3 回程度のメールマガジンの配信をはじめた。コロナ禍で対面式ガイダンスの実施が難しいなか、学生にメールで「就職活動や進路に向けて今何をすべきか」などの情報の発信を続けている。

また、本学学生専用の求人閲覧 WEB サイト（キャリアタス UC）の求人も精査をし、学生へ求人を提示するなどしつつ、サイトの利用を促した。外出ができない・企業説明会の参加などできない状況下が本年度も続いてきたため、安心して WEB を使用して求人を探ることができるよう環境を整えている。

<中学校・高校の事業>

1) 広報活動の強化

① 生徒募集活動の実施

前年度に引き続き広報校務会を積極的に開催、学校説明会や進学相談会開催前に実施内容の指示や確認を行った。昨年度とは異なり、オンラインのみの説明会開催は1度で済んだため、人数規制はしたものの例年通り内部相談会は実施できた。外部進学相談会は、再度開催されたものも増えたため、積極的に広報活動が行えた。

特に中学校では、直近の大学入試改革を鑑み、今日の子供たちが将来求められる力、上野学園中学校でフィールドワークを実施する理由について、本校で行っている様々な取り組み事例と合わせて在校生・卒業生の力も借り、紹介を行った。特に極力毎回生徒の姿を見せるように工夫し、在校生・卒業生のありのままの姿をお見せした。決して学業だけではない、本校の豊かな人間性を育成する校風、教育の取り組みに魅力を感じていただける方も多くいた。フィールドワークから探究学習につなげ、一人一人に合った進路を見つけるという本校の取り組みをアピールできたと考えている。また、中学入試は保護者がメインとなるため、第一志望に指名して下さった保護者には丁寧にイベント情報などを共有し、サポートに専念した。中学入試では、公立中高一貫校受験生に配慮し、基礎力を重視するという観点から2科型に特化した。特に適性検査型は、「都立白鷗中学校」の併願先として認知してもらえるように広報活動を続けてきた。公立一貫校受験塾の最大手「ena」の地区会議にも参加し、定期的な情報発信などを通して良いアピールができた。しかし、桜丘中学が公立中高一貫校向けに適性検査試験を始めたため、受験生が分散してしまった。その結果中学入試では他日程の受験生は昨年度並みであったが、適性検査型受験生は延べ人数が昨年度比24%の減少となった。なおいくつかの塾の校長には、SNS等の風評被害があったことにより、出願に不安を持つ保護者がいると伝えられ、受験生減の要因となったといえる。

来年度の入学生の見込みは49名と本年度より11名減少となったものの、昨年度以前よりは増員となったため、大幅な減少は避けられた。今年度も受験生が偏差値だけでなく、学校の雰囲気や取り組みをみて学校を選択する傾向がみられるようで、多くの学内説明会を通じて本校の生徒を主体とした学校づくりに興味をもって頂けたのだと考えている。また、インターエデュに委託した塾訪問も効果を上げていると考える。訪問に行った塾からはかなりの割合で出願がなされていた。

高校受験に関しては、昨年度の中3生より例年に比べ増加傾向にあり、かつ本校は推薦基準の加算ポイントを緩和したことが影響し、普通科178名と例年並みの成果を出すことができた。普通科は特に併願受験生の歩留まりが30%で推移し、優秀な生徒が入学してくれた。来年度以降は、都内の中3生の数は若干減少していくが、一方で、都立高校のうち本校の併願先の学校は、軒並み高倍率である可能性が高いため、歩留まりは良いと考える。単願受験者をしっかりと確保した上で、併願者は都立の比較的倍率のつく高校の併願校として認知してもらうことが必要である。そのために外部相談会への参加や模試会場として本校教室の貸し出しをより一層利用して、来校してもらう機会を増やす予定である。

その他、例年通り中高生徒から有志を募り、「上野学園コンシェルジュ」を組織、学校説明会時の受付、施設案内、個別相談など生徒達が主体となって説明会の運営に関わる場を作った。受験生と等身大の本校生徒達と関わる機会を設けることで、受験生とその保護者の持つ入試への不安等を和らげることができた。アンケート結果からも、「上野学園コンシェルジュ」の存在が受験へと導いた例が数多くあり、その成果があったことがわかった。卒業生へのインタビューでもこの

組織に参加することは、本校生徒にとっても教育上大変良い影響を生んでいる、という実感を得た。近年、大学進学においても総合型選抜・公募推薦入試で特別活動を重視する傾向であり、本校生徒の大学進学の活動実績につながると考えている。

② 塾訪問・学校訪問

例年通り、インターエデュ社の塾訪問代行のサービスを取り入れ、年間600塾以上を訪問いただいた。担当者は何度も本校に足を運び、学校の中身をよく理解した上で訪問をしてくれた。アポイントを取って訪問をしてくれるので、その後に繋がる塾も多く、教室での学校説明を実施させていただいた教室もあった。また、同社はenaのグループ会社であり、enaのエリア長会議に年間2回出席させていただき、直接学校の情報を先生方にお伝えすることもできた。これによって、各エリアに情報を下ろしていただいたのも、受験生増員につながった。今後は、塾訪問プログラムに参加していない学校は、enaへの塾訪問ができなくなる。より緊密な関係を維持したい。

中学校訪問は、各教員の担当を3校にし、年間最低2回の訪問をお願いした。塾訪問に人員を割かなくても良くなった分、広報の教員は中学校訪問を多めに入れることができたのも良かった。

また、塾及びV模試、北辰模試への会場貸し出しを行ったことで出願増加にもつながった。来年度は、さらに積極的な貸し出しを行い、広報活動に繋げていきたい。

③ 中学校音楽コース、高等学校音楽科生徒募集の実施

昨年度は新型コロナウイルス感染症の感染対策を講じながら、生徒の音楽活動を再開し、外部受験生へ広報しながら募集活動を行った。

行事の広報の方法は、ア 学校HPでの音楽行事の掲載、イ 学校ブログでの掲載、ウ 音楽楽器店でのチラシの配布、エ 小学校・中学校への学校案内発送、オ 卒業生への学校案内発送を行うとともに、受験生対象の学校説明会や外部説明会や個別相談なども行った。

行事の中で、実施したものは、ア 各種学内演奏会（中二・高二演奏会、桜鏡演奏会、総合演奏会。卒業演奏会）、イ 地元とのコラボレーション演奏会（上野ミュージックフェスティバル）、他校との交流演奏会（東北震災応援演奏会）、ウ 外部講師を招いて本校で、生徒が受講する公開レッスンや校外での公開レッスン（大宮ニコニコ堂、スガナミ楽器）、エ 体験レッスン（受験希望の専門楽器を専門の担当者からレッスン）で、これらをとおして、本校での音楽教育を知ってもらう機会とした。

なお、高校音楽科卒業後、学内優先入学制度を利用して本短期大学部へ2名が進学し、また今年度も複数の他音大からの推薦指定校枠を利用して3名が進学するなど、進路選択の幅もより充実している。

2) 学力レベル向上への取組み

センター試験が大学入学共通テストに移行し、同時にコロナ禍での受験動向の変化などもあり、昨年度同様に不安定な入試状況となった。ここ数年顕著であった定員の厳格化を各大学が徹底するなかで、一般入試ではなく年内の総合型選抜や学校推薦型選抜を利用し、早めに、安全に、進路を決定しようとする傾向が特に強く見られた。本校は「総合的な探究の時間」においてゼミでの指導のもと探究に取り組む「My Project」を導入していたこともあり、探究過程や探究成果をもとに総合型選抜や公募制推薦選抜にチャレンジできる生徒が多かった。また、特進クラ

スに関しては、当初想定していた学力向上を目的とした受験指導が十分に行えず、結果として国公立大学合格者を2名しか出すことができなかった。共通テストへの対応とともに、十分な演習時間や学習内容の定着時間の確保が課題となった。一般選抜での進路決定者が学年全体の1割程度に減り、例年のように一般受験で国公立・早慶上理・GMARCHに挑戦する生徒が大きく減ったことは看過できない。来年度は十分な準備のうえ、年内受験でもう少し上位レベルの大学にチャレンジしつつ、一般受験でも合格できる学力を得られるよう、多角的な支援体制を構築したい。

① 放課後講座の実施（校内教員担当）

昨年度に引き続き、高1・高2・高3の特進を対象に、校内教員による放課後講座を実施し、基礎力や応用力の向上を図ったが、コロナ禍によるオンライン授業や下校時間の前倒しなどにより、十分な時間を確保できなかった。

② 中高全学年対象講習の実施

中学、高校ともにサマースクール・ウィンタースクールを一部期間に限定し実施した。残念ながら一昨年度からの取り組んでいるSTEAM教育に連動したサマースクールは実施できなかったが、来年度以降再度継続的に実施できるように工夫したい。また、新たな取り組みとして、二学期に理系、哲学、フランス語、英会話の外部の専門家による放課後チャレンジ講座を実施し、全体で中高合わせて40名ほどが参加し、学習した。

③ 高1、高2の特進コース対象勉強合宿

今年度はコロナ禍による宿泊行事取りやめ措置により、例年実施していた勉強合宿は実施しなかった。代替措置として、高1・2特進を対象に校内で勉強特訓を実施し、勉強方法の確立や、集中して勉強する習慣付けを行った。

④ 各種検定の実施

目標を達成することの満足感や学習への動機を高めるため、検定合格に向けた指導の充実を図り、多くの検定に生徒を挑戦させた。（例：英語検定、漢字検定、数学検定、硬筆・毛筆書写技能検定、ニュース検定等）

⑤ 自学自習の構築

生徒が「SAKURA手帳」を活用し、自らスケジューリングやタスク管理を行っている。定期考査については、各教室・廊下の掲示を使い、2週間前からカウントダウン方式で考査日までの日数を表示、生徒自身が勉強の計画を立てた。生徒の自習場所として、考査1週間前からは4階フロア全体を自習スペースとして開放した。進路指導部の教員が、その補助的役割として下校時間まで自習監督、相談要員としてサポートを行った。また「Classi」自学支援オンラインツールの活用も深まり、未習範囲や取りこぼした範囲もいつでも映像やWEB問題で振り返られるようになった。アダプティブな学習とその支援体制がICTツールによって構築された。卒業生チューターについてはコロナ禍による来校制限にともない、今年度は運用しなかった。中3学年にスタディサプリを導入し、課題配信を行うとともに、自学自習用ツールとして活用を促した。

3) 教員の指導力強化

本年度も、コロナ禍にともないオンライン授業を行った。オンライン授業では昨年度の経験から得た新たな授業をもとに、どのような授業ができるか教員同士研究し、授業作りを行った。また、新任教員研修として、当該教員の授業を対面授業のみならずオンライン授業も公開した。授業には、それぞれ約10名の教員が参観し、授業後に各教科会議で評価される点や改善点等の意見交換を行い、新任教員が効果的に経験を積み、能力を向上できる機会を作った。

教員の指導力強化に当たっては、私立中高協会や私学財団、塾等の外部機関が主催する研修やセミナー、研究会等への積極的な参加を促進しており、多くの教員が実際に自身の能力向上に資すると考える研修等に参加した。研修等に参加した教員は、その内容を、職員会議で発表し、他の教員と情報共有を行った。

さらに、「探究科」を設置し、中学におけるフィールドワーク、卒業研究、高校における探究学習について研究、実践を行った。中学3年生による卒業研究の発表は、コロナ禍にともなう中止により、探究活動の成果を共有することが難しいなかで、教員、生徒とともに何ができるか時間をかけて検討し、1日校外研修やオンライン発表の開催など新たなチャレンジを各学年で行った。

こうした、教員の指導力強化、探究学習の研究・実践と並行し、授業環境の改善も昨年度同様、継続して行った。具体的には、中学1年～高校3年まで、一人1台iPadを所有し、授業で活用できる体制を整えた。また、各教室だけでなく特別教室にもプロジェクターを設置し、iPadを用いた授業の効率化を実現した

4) 生徒指導の充実

本年度は、遅刻指導、生徒心得(校則・ルール)の見直し、組織的指導体制の確立の3点を目標とし生活指導の充実に取り組んだ。

1点目の遅刻指導では各クラス、各学年において一定期間内に一定の遅刻回数に至った生徒を生徒指導部の教員が面談する方法をもって対応。通期的に見れば遅刻の減少が認められた。今後も担任、学年と協力して組織的に指導する体制を確立することも含めて継続したい。

2点目の生徒心得の見直しについては、まず部内で何度も審議し、その上で全教員にも十分に議論してもらってルール改訂に至った。

3点目の組織的指導体制の確立については、現場の最先端である担任が生徒指導的事象において孤立することのないよう、生徒指導案件では審議の段階から度々会議を開いてコンセンサスを図り、また、実際の指導的場面では生徒指導部と学年、担任で当たることによって個々の生徒に対してより効果的な指導を求めた。また、上記の遅刻指導も担任が一人で大変な生徒を抱えないよう組織的に指導していくことを意図したものである。

学校行事については、コロナ対策や熱中症対策など工夫をし、時期をずらしたり、プログラムを変更したりして、ほぼ実施することができた。

〔生徒会行事〕

実施日	行事名	対象
4月9日(金)	新入生オリエンテーション・部活説明会	新中1・高1
4月12日(月)	自転車安全教室	自転車通学希望者
6月8日(火)・6月10日(木)	体育大会	全校生徒

9月22日(水)	自転車安全教室	自転車通学希望者
11月20日(土)	桜鏡祭	全校生徒
11月21日(日)		
12月11日(土)	生徒会選挙	全校生徒

5) 生徒の健康と安全

校内の救急体制の整備のため、下記取り組みを行った。

①健康上注意が必要な生徒の共有

健調査票や健康相談から実技教科などで配慮が必要な生徒について校内で共有した。

②食物アレルギーの知識の普及・研修会の実施

食物アレルギーのある生徒を共有した。新任研修で食物アレルギーの緊急時の対応を確認した。

③教職員、生徒対象救命救急講習会の実施

教職員・生徒希望者対象の普通救命講習会を7月に実施した。

④中学3年生、高校2年生対象HIV講習会の実施～命の大切さを学ぶ～

台東保健所の「HIV 予防啓発事業」を活用し、中学3年生と高校2年生対象に外部講師によるHIV講習会を12月から1月に開催した。

⑤中学生のうち注意を要する生徒についての月1回の情報交換会（サポート委員会）を管理職、中学学年主任、養護及びスクールカウンセラーで開催し、対応についてできるだけ組織的に行うようにした。

⑥学校（部活動含む）がコロナ感染源と考えられた事例では、学校医、保健所と連携して、対象の部活動等に関して、情報共有を学校全体で行い、さらなる感染の拡大を防止するとともに、できるだけスムーズに正常化するような体制をとった。

6) 中学校音楽コース、および高等学校音楽科生徒によるコンサート

本年度に実施した中学校音楽コース、高等学校音楽科生徒出演の主な演奏会は下記の通り。

[令和3年度 中学校音楽コース・高等学校音楽科生徒による主なコンサート]

実施日	演奏会	会場
5月8日(土)	中二・高二演奏会	上野学園 講堂
6月26日(土)	高等学校音楽科 近藤嘉宏先生のピアノ公開レッスン	上野学園 講堂
7月10日(土)	演奏家コース室内楽前期発表会	第1リハーサル室
9月19日(日)	桜鏡祭演奏会	上野学園 講堂

11月27日(土)	中高総合演奏会 (中学校音楽コース・高校音楽科のみ)	上野学園 講堂
12月4日(土)	高3音A組 演奏研究発表会	アンサンブル室
1月17日(月)	高等学校音楽科近藤嘉宏先生の ピアノ公開レッスン Vol.2	旧エオリアンホール
2月5日(土)	高校卒業演奏会	トッパンホール
3月15日(火)	演奏家コース室内楽後期発表会	第1リハーサル室
3月16日(水)	中学卒業演奏会	飛行船シアター (旧 上野学園 石橋メモリアルホール)
3月28日(月)	東北復興応援演奏会 (3月27日(日)~29日(火)高1 高2音楽科 東北復興応援演奏旅行内で実施 特別出演:常盤木学園生徒、卒業生)	常盤木学園 シュトラウスホール

以上